

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.30

特集 令和元年度発掘調査速報

ヒ工塚古墳の葺石は「密集」「密接」そのもの。
掘るもの、測るもの、それはそれは大変でした…。



天理市内には、原始・古代から近現代に至る数多くの文化財が所在します。例年、年2回の文化財展示をおこなって、市内の文化財と市の歴史について理解を深めていただけよう努めてきたところですが、本年については新型コロナウイルス感染拡大の影響により、夏の文化財展の開催をやむを得ず断念いたしました。

今回のセンターだよりでは、令和元年度の発掘調査で得られた成果について、紙上をもちまして皆様にご報告させていただくことといたします。

また、近隣の自治体である田原本町、三宅町、川西町における近年の発掘調査成果についても、あわせてご紹介いたします。

令和元年度に実施した発掘調査の速報

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。ここでは令和元(2019)年度におこなった発掘調査5件、天理大学との共同調査1件のほか、田原本町・三宅町・川西町各教委の調査成果から各1件をご紹介します。



- ①前栽遺跡第10次 ②別所遺跡第4次 ③櫟本チトセ遺跡第1次・中ツ道跡 ④布留遺跡群第36次
⑤ヒ工塚古墳第5次 ⑥東乗鞍古墳第4次 ⑦清水風遺跡第7次 ⑧アンノ山古墳第2次 ⑨島の山古墳

ヒ工塚古墳 第5次

ひえづかこふん

⑤

ヒ工塚古墳の前方部西側で範囲確認調査をおこない、基底石や葺石の一部のほか、葺石を持たない段状遺構を検出しました。

基底石には長軸40~60cmの石が用いられ、一度基底石を並べた後、その前面に2段程度積み足してあるようです。墳丘前面側では後世の搅乱が激しく、周濠は確認できていません。

見つかった基底石の位置から、ヒ工塚古墳の全長は127mとみられます。



葺石基底部および段状遺構(西から)

櫟本チトセ遺跡

第1次・ 中ツ道跡

いちのもとちとせいせき
なかつみちあと

③

櫟本町内での工場建設に伴って未知の遺跡が見つかりました。発掘調査では古墳時代前期後半～中期後半の断面V字状の大溝3条や、これにとりつく多数の溝群のほか、これらの南側で10基以上の柱穴群と井戸2基を確認しました。井戸からは小型銅鏡(別途紹介)など祭祀遺物もみつかり、マツリの場だったようです。

また、県道天理環状線沿いでは中ツ道東側溝とみられる大溝や路面らしき硬化土もみつかりました(別途紹介)。



櫟本チトセ遺跡調査区遠景(西から)

前栽遺跡 第10次

せんざいいせき

①

宅地造成に伴い富堂町内で発掘調査をおこないました。

南北方向の中世の大溝と、下層で弥生時代中期の土坑を確認しました。



見つかった中世の大溝

布留遺跡群 第36次

ふるいせきぐん

④

石上神宮參集殿増築工事に伴い発掘調査をおこないました。中世に建築されたと考えられる石垣と石組遺構を確認しました。



中世の石垣および石組遺構

別所遺跡 第4次

べっしょいせき

②

市立北中学校建て替え工事に伴う事前の発掘調査をおこないました。溝や土坑を確認し、それらの中から須恵器や土師器の破片が出土しました。

東乗鞍古墳 第4次

ひがしのりくらこふん

⑥



期間 令和2年2月10日～
令和2年2月22日

東乗鞍古墳は乙木町に所在する前方後円墳で、古墳時代後期に築造されたものと考えられています。古墳の構造や規模を知るため、平成29年度から天理市教育委員会・天理大学が共同で発掘調査に取り組んでいます。今回の第4次調査では後円部東側の調査を実施しました。

今回の発掘調査で後円部東側の墳丘裾を確認したことにより、東乗鞍古墳の全長が約83mであることが判明しました。



調査風景

清水風遺跡

第7次

田原本町教委調査

しみずかぜいせき

7

清水風遺跡は、天理市庵治町から田原本町唐古にかけて広がる遺跡で、弥生時代中期後葉には唐古・鍵遺跡の祭祀空間でした。第7次調査では、唐古・鍵遺跡から北流する「北方砂層」と、これから分流する流路を検出し、絵画土器などが出土しました。

これらの絵画土器には、乳房の表現がある「両手を広げた人物」の絵画土器片があり、同様のポーズをとる人物絵画が女性であること、性別による祭祀の役割分担があつたことが推定できます。



調査区全景

アンノ山古墳

第2次

三宅町教委調査

あんのやまこふん

8

アンノ山古墳は磯城郡3町(田原本町・川西町・三宅町)に広がる三宅古墳群に属する古墳ですが、これまで未調査であったため詳細はわかりませんでした。そのため、古墳の規模や築造時期の特定を目的として平成30年度から調査に取り組んできました。

今回の調査では後円部及び前方部前面裾を確認し、規模が50mであることがわかつりました。

また、周濠も確認しています。出土遺物は須恵器・土師器が少量出土し、埴輪類は見られませんでした。築造時期は6世紀中頃と考えられます。



調査地遠景(北西から)



須恵器出土状況(南から)

島の山古墳

川西町教委調査

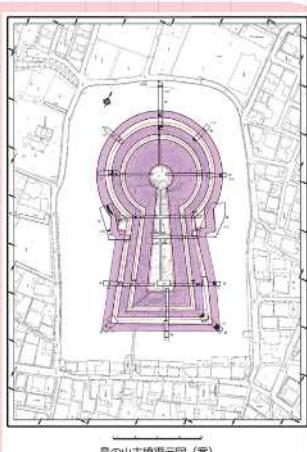
しまのやまこふん

9

川西町内では、令和元年度の発掘調査はありませんでしたが、町内最大の古墳である島の山古墳の発掘調査報告書を平成31年3月に発刊し、同古墳の復元案を作成しました。

古墳は前方後円墳の形態をよく残しつつも、周濠部と墳丘上部の削平が大きく、復元には困難を伴いましたが、結論としては、墳丘全長200m、3段築成で各段の比率は下から1:1:3と想定し、左図のとおり作図しました。

興味深い発見として、西側くびれ部の池底では竹製の籠4点が出土し、祭典をおこなった際に供物を納めた跡ではないかと考えられます。



島の山古墳復元図(案)

出土品紹介 櫛歯文鏡(くしばもんきょう)

櫟本チトセ遺跡で古墳時代前期後半の井戸から出土した、直径わずか

3.6cmの小型の銅鏡です。

こうした銅鏡は一般に「小型仿製鏡」ないし「小型倭製鏡」と呼ばれ、日本列島で制作されたとされています。

文様は、真ん中の鈕(ひもを通す部分)を中心とした円と、鈕からこの円に向かって放射状の直線を多数描いた比較的簡単なものです、「櫛歯文」と呼ばれる中国にモデルのない列島独自の文様で、全国でも15面程度しかみつかっていません。

小型仿製鏡は水のマツリにともなって水路などで出土することがあります、井戸から出土するのは極めて珍しく、古墳時代の完全な形の鏡が出土した井戸は全国でも2例目です。

この鏡を使ったマツリには豪族などの有力者が関与した可能性が高く、ちょうど同時期に造営されていた東大寺山古墳や赤土山古墳、和爾下神社古墳などの前方後円墳との関係も興味深いところです。



※写真は実物を2倍に拡大

「下之坊の大スギ」が奈良県の天然記念物に指定されました。

本市福住町の「下之坊」(普光山永照寺)の参道両側に、山門のごとくにそびえる2本の大きなスギの木があります。北側のスギは樹高37.2m、南側のスギは36.2mあり、特に北側のスギは地上4.5~5mのところで6本に分岐しています。樹齢はいずれも700~800年と推定されますが、詳しいことはわかつていません。

下之坊の大スギは県下有数のスギの巨樹であり、北側のスギは特異な生態を示すとともに、このたび令和2年3月6日付で奈良県の天然記念物に指定されました。

またこのスギは通称「婆羅門杉」として、地域の人々によって今も大切に守り継がれています。



中ツ道に見る災害復旧

櫟本チトセ遺跡では、県道天理環状線沿いに設けた調査区から中ツ道の東側溝とみられる溝も見つかっています。溝は2時期あり、古い方の溝は幅1.0m、深さ約0.5m、新しい方の溝は幅約2.2m、深さ約1.0mを測ります。古い方の溝からは奈良時代以前の遺物のみが出土したのに対して、新しい方の溝からはそれにくわえて平安時代の遺物も出土しました。奈良時代に古い方の溝が埋まってから、そのすぐ西側に新しい溝が掘り直されたようです。

道路側溝の掘り直しそのものは、いわゆる「溝さらえ」の大規模なものとして珍しいものではありませんが、ここでは位置が移動てしまっているのが特徴です。前の側溝と違う位置に側溝を掘り直す場合としては道幅の変更が考えられますが、ここでは新しい溝は西側に掘られているので道幅は狭まってしまいます。前の溝が埋まったのが奈良時代と考えてよければ当時における首都近郊の主要幹線道路ですから、狭めることは考えにくい。そもそも、主要道路として管理が行き届いていたはずの時代に、完全に側溝が埋まってしまうなんて…?

これはどうしたことだ、と考えながら調査区の壁の土層をよくみると、調査区内全体の傾向として、東の方から何度も土砂が流れきている形跡があることに気づきました。どうやらここは、かつては水のつきやすい土地だったようです。

そこでこう考えてみました。奈良時代のある日、いつもよりひどい洪水があって、流れてきた土砂で中ツ道の側溝が一気に埋まってしまった。おそらく土砂は路面にまでかぶさり、中ツ道は通行止めを余儀なくされたでしょう。

奈良の都の目と鼻の先で、超一級の幹線道路が通行止めとは一大事。大急ぎで復旧作業がおこなわれ、以前よりも大きな側溝が掘されました。位置が違うのは、突貫工事のあまり、掘り直す位置が少しずれてしまったのでしょうか…。

ちなみに、元の側溝が埋まると、その跡地は道路外でありながら通路になつたようで、人や牛の足跡がたくさんみられました。中ツ道の両側には農地が広がっていたでしょうから、農作業のために中ツ道を横断することもあったでしょう。人は側溝を飛び越せても牛には無理ですから、側溝に橋か何かが設けてあるところまで道路脇を歩いたのかもしれません。



田原本町 唐古・鍵考古学ミュージアム

令和2年度企画展 「よみがえる弥生の祭場—唐古・鍵遺跡と清水風遺跡—」

令和2年10月24日(土)~12月6日(日)<予定>

会場:田原本町青垣生涯学習センター2階会議室(特別展示室)

※今後の状況により、変更となることがあります。

お問い合わせ: 0744-34-7100

発行◆天理市教育委員会 文化財課

天理市埋蔵文化財センター

〒632-0017 奈良県天理市田部町441-2

Tel・Fax 0743-65-5720

印刷◆

※『天理市埋蔵文化財センターだより』Vol.31は、令和2年度冬発行予定です。

お楽しみに!!